



新西市民病院整備基本構想 概要版

令和3年11月

神戸市・地方独立行政法人神戸市民病院機構

基本構想策定の背景

- 西市民病院は、昭和45年1月に現在の位置に開院して以来、市街地西部（兵庫区・長田区・須磨区本区）の中核病院として、高水準の医療や24時間体制での安定的な救急医療を提供してきましたが、施設の老朽化や狭あい化により、求められる医療への対応が困難な状況にあるほか、新興感染症¹や災害時などの機能確保にも課題があります。
- こうした中、神戸市では「西市民病院（市街地西部の中核病院）のあり方検討に係る有識者会議」を開催し、市街地西部の中核病院としてのあり方について検討を重ねてきました。その結果、「今後も市街地西部の中核病院としての役割を果たしていくためには、移転新築による再整備が望ましい」との報告書が提出されました。
- 神戸市では、この報告書や市民意見を踏まえ、再整備の方向性について基本的な考え方をとりまとめた「新西市民病院整備基本方針」を令和3年8月に策定しました。
- 本基本構想は、基本方針に基づき、今後担うべき役割や診療機能の方向性についてとりまとめたものです。今後も市街地西部の中核病院として、救急医療、小児・周産期医療、感染症・災害医療などの政策的医療への対応を充実させ、市民に安全で質の高い医療を提供できる病院の実現を図ります。

新病院の基本的な考え方

新病院は、市街地西部の中核病院として、

- あらゆる世代の住民に対して安全で良質な急性期医療²を提供するとともに、柔軟で持続可能な感染症・災害に強い病院として、市民の生命と健康を守ります。
- ひとりでも多くの住民がいきいきと健康に過ごすために、地域医療機関との連携のもと、地域医療と地域社会をつなぎます。
- 開かれた病院として地域住民に親しまれ、人々が集まり交流できる拠点となり、まちとひとを育む施設としての役割を果たします。

まもる

市民の生命と健康を
守る

つなぐ

地域医療と地域社会を
つなぐ

はぐくむ

まちとひとを
育む

- このような「まもる」、「つなぐ」、「はぐくむ」という考え方のもと、3つのコンセプトを掲げ、市街地西部の急性期医療の中心的役割を担うだけでなく、住みたくなるまちのシンボルとなるような病院を目指します。

¹ 最近新しく認知され、局地的にあるいは国際的に公衆衛生上の問題となる感染症。

² 状態の早期安定化に向けて、専門的な治療・処置を提供する必要がある疾病に対する医療。

救急医療、感染症・災害医療の強化

市街地西部の救急医療の中心として、より高度な水準の2次救急³に対応するとともに、新型コロナウイルス感染症のような新興感染症や災害時に柔軟に対応できる機能・体制を確保します。

地域包括ケアシステム⁴の推進

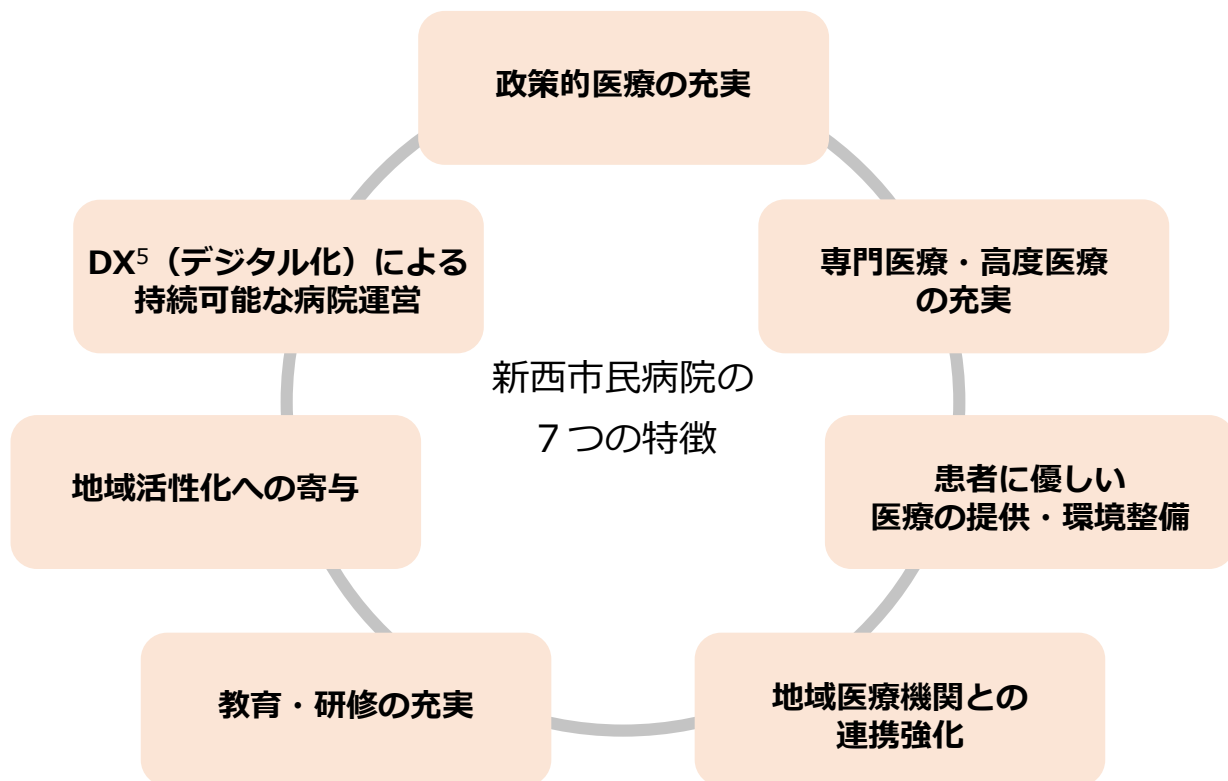
地域医療機関との連携及び中核病院としての役割を強化し、地域内で診療を受ける割合（受療の完結率）を高めることで、住民に切れ目なく必要な医療を提供します。

まちづくりや地域活性化に寄与

公共空間との一体的な整備や周辺施設との機能連携により、人々が交流できる憩いの場として、にぎわいのあるまちづくりや地域活性化に寄与します。

新西市民病院の特徴

- 新病院では、以下の7つの特徴のもと、必要な医療を提供し、総合的な診療機能を向上させるため、現在の診療科構成を維持・充実させるとともに、医療従事者の確保に取り組みます。



³ 入院治療や緊急手術を必要とする患者に対応する救急医療。

⁴ 重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される体制。

⁵ Digital Transformationの略。ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。

政策的医療の充実

救急医療

- より高度な水準の2次救急に対応するため、救急診療の体制を強化します。
- 重症化の恐れがある脳血管疾患、心血管疾患への対応を強化し、地域医療機関との連携のもと中等症⁶救急搬送を市街地西部内で完結させます。

小児・周産期医療

- 市街地西部で唯一の総合的な小児・周産期病院として、小児2次救急や分娩など小児・周産期医療への対応機能を強化します。
- 小児医療とあわせて地域で安心して出産ができる医療体制を構築し、地域活性化に寄与します。



災害医療

- 大規模災害時にも診療機能を継続できる医療スタッフやインフラを確保します。
- 若松公園との一体的な活用によりトリアージ⁷等のスペースを確保し、災害対応機能を強化します。

感染症医療

- 神戸市全域における新興感染症への対応のため、感染症に対応できる医療スタッフの確保・育成を推進するとともに、段階的に感染症専用病床を拡張できる運営体制の構築や施設・設備の整備に取り組みます。



専門医療・高度医療の充実

がん

- ロボット手術をはじめ治療技術、検査・診断機能の高度化に対応するとともに、放射線治療機能の導入の検討を進めます。
- がん診療支援センターを整備し、がん診療に関する情報を発信するとともに、治療における適切な選択や地域内で継続治療を行う患者への支援を行います。



脳卒中・心血管疾患

- 地域医療機関との連携のもと、より高度な水準の2次救急医療を提供し、複数疾患を持つ高齢者の増加に対応するため、総合的な診療機能を向上させます。

糖尿病

- 地域医療機関との連携を推進するほか、地域住民への健康講座の開催など、生活習慣病予防や健康増進に向けた取り組みを支援します。



認知症

- 認知症の人にやさしい神戸を目指し、地域住民に認知症リスク低減や認知症になっても困らない生活様式を啓発します。
- 認知症の進行を遅らせ地域生活を維持するために必要となる医療を提供します。

⁶ 傷病の程度が入院を必要とするもので重症にいたらないもの。

⁷ 災害時発生現場等において多数の傷病者が同時に発生した場合、傷病者の緊急度や重症度に応じて適切な処置や搬送を行うために、傷病者の治療優先順位を決定すること。

患者に優しい医療の提供・環境整備

- 分かりやすい診療部門配置や案内表示、移動負担の少ない院内動線等、誰もが利用しやすい施設・設備を整備します。
- 医療安全及び感染管理やプライバシーの保護に配慮した安全・安心な医療環境を整備します。
- 入退院に関する各種手続きの集約化や効率化に取り組みます。
- インターネット診療予約などICT（情報通信技術）の活用や売店等の利便施設の充実により、待ち時間の過ごしやすさに配慮するとともに、患者の利便性向上に取り組みます。



地域医療機関との連携強化

- 地域連携や入退院支援、患者支援等の機能を一体化した患者支援センターを整備します。
- 訪問看護ステーションや医療・介護・福祉施設と連携し、患者の療養上の課題の早期解決に向けて総合的に支援します。



教育・研修の充実

- 医師をはじめ医療従事者の専門性の向上や研究を支援する体制を整備します。
- 研修医・専攻医等への研修支援や医療系学生等の受入れを積極的に行うほか、地域の医療従事者の生涯学習を支援します。
- 講演が行えるスペースの確保やICTを活用したWebカンファレンスの導入等、地域医療機関等の研修体制を支援します。

地域活性化への寄与

- 地域で安心して出産ができる医療体制の構築や病児保育の実施等、子育て環境の向上に寄与し、若者の移住促進やまちの魅力向上に貢献します。
- 人々が集まり交流できる拠点として、病院内に誰もが利用できる子どもの遊び場を含む交流施設を整備します。
- 地域の関係機関と連携し、健康講座や健康相談を開催するなど、地域住民の予防や健康づくりを推進します。



DX（デジタル化）による持続可能な病院運営

- ICTの活用により、医療従事者の負担軽減や業務の効率化など職員の働き方改革を推進するとともに、待ち時間の短縮など患者の利便性を向上させ、医療の質の向上に取り組みます。
- 医療技術の高度化や医療政策の動向等に対応できるよう、柔軟な運用が可能な余地を確保し、新病院開院後も時代の変化に対応しながら発展することができる病院整備と経営を目指します。

建物概要

建設場所

- 若松公園の一部（所在地：神戸市長田区若松町6丁目及び日吉町1丁目）



病床数

- 現在（358床）と同程度

1床あたりの面積

- 約100㎡（中央市民病院及び西神戸医療センターと同程度）

敷地面積

- 7,000㎡～7,500㎡程度（若松公園全体面積16,100㎡）

交流施設の整備

- 新病院では、雨天時にも利用できる子どもの遊び場など、地域住民が交流の場として利用でき、子育て環境の向上に資するような交流施設を病院内に新たに整備します。
- 災害時にはトリアージ等のスペースとして活用することで、災害対応機能を強化します。

設計・施工の発注方式

- 病院施設の設計・施工の発注方式は、設計と施工を分離する方式や設計から運営までの一連業務を民間に委託するPFI方式に加え、発注者・設計者・施工者が共同で検討を進めるDB方式やECI方式等、様々な発注方式があります。
- 新病院整備においては、各発注方式の特徴を十分に精査し、より最適な方式を基本計画段階で検討します。

概算事業費

- 近年の病院整備事例の建築単価を参考に試算したところ、230億円～260億円程度と見込まれます。
- 今後の社会情勢を見据えて基本計画及び設計の各段階において、病院本体、医療機器、付属施設等の具体的な整備内容を検討し、より詳細な事業費を算出します。

スケジュール

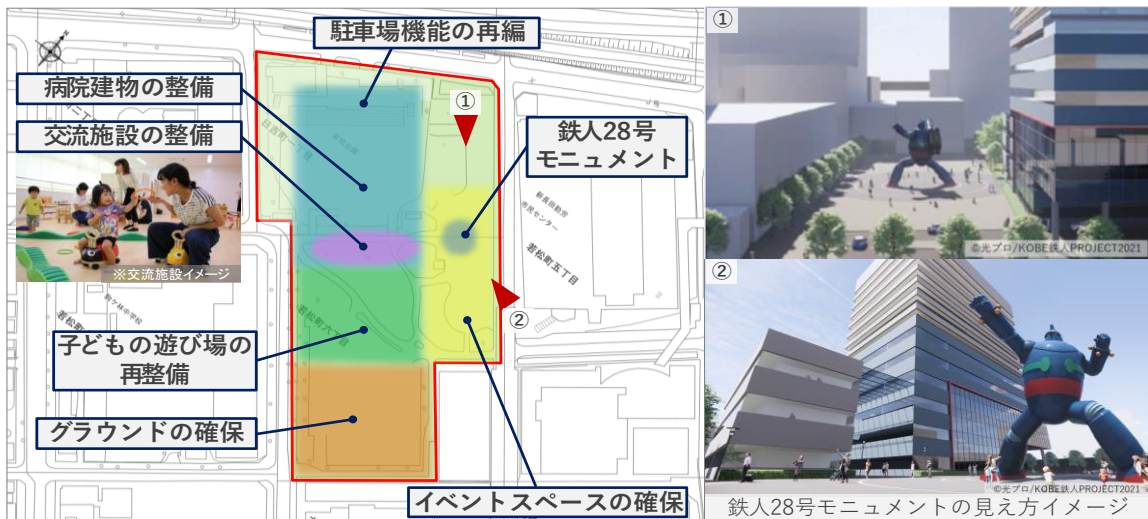
- 令和10年度の開院を目標に本事業に取り組みます。
- 今後基本計画及び設計を進めていく中で、設計・施工の発注方式や計画内容、諸条件によりスケジュールが変更になる可能性があります。
- 新病院が開院するまでは現病院での運営を継続します。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
基本構想	■							
基本計画		■						
基本設計			■					
実施設計				■				
建設工事					■	■	■	開院

関連事業

若松公園のリニューアル

- 新病院の整備に併せて公園全体をリニューアルするとともに、病院敷地内を緑化することで公園機能を維持し、まちづくりにも寄与できるよう具体的な検討を進めます。



駐車場機能の再編

- 新病院の地下に駐車場を整備する予定ですが、現在若松公園の地下にある市営駐車場の利用状況や病院利用者による需要見込み等を考慮のうえ、必要な駐車台数を確保できるよう検討します。

市バス路線の再編

- 病院利用者には不便が生じることがないように、新長田駅を中心とした市バス路線の再編について、交通事業者と協議を進めます。

現病院跡地の利活用

- 現病院移転後の土地・建物の活用については、将来の社会経済情勢等を考慮し、幅広い観点から検討します。

新西市民病院整備に関するホームページ

神戸市ホームページ

<https://www.city.kobe.lg.jp/a65055/shise/kekaku/health/nishi-saiseibi.html>



西市民病院ホームページ

<http://nishi.kcho.jp/seibi/2945.html>



発行

神戸市健康局地域医療課

地方独立行政法人神戸市民病院機構法人本部企画財務課

新西市民病院整備に関するQ&A

Q なぜ建替えが必要なのですか？

病院は24時間体制で稼働しており、他の公共施設に比べ施設の老朽化の進行が早い傾向にあります。現在の西市民病院は、阪神・淡路大震災前から施設を増改築しつつ運営しており、特に手術室や救急外来等の主要な機能がある北館は築30年を迎え、配管設備を中心に老朽化が進んでいます。

また、近年の医療の高度化への対応のため増改築や職員の増員を進めてきた結果、施設は狭あい化し、高度医療機器を導入するスペースもなく、求められる医療への対応が困難な状況となっています。

今後さらなる機能強化を図り、市街地西部の中核病院として必要な医療を提供するためには、現状のままでは対応できないため、建替える必要があります。

Q 現地で建替えできないのですか？

現地で建替えを行う場合、救急や手術など病院機能の大半を長期的に休止する必要があるとともに、工事中の騒音など患者さんの療養環境の悪化が懸念されます。

また、現地で建替えを行うためには空地が必要ですが、近年の医療の高度化への対応のため増改築や職員の増員を進めてきた結果、敷地内に空地はなく、周辺敷地においても一時的に仮設できるような適地がありません。

整備期間中の機能の低下を最小限に留め、将来にわたり市民の皆さんに必要な医療を提供するためには、診療制限や建物規模、工事期間・費用などの観点を総合的に判断し、移転新築が望ましいという結論にいたりました。

Q なぜ若松公園が移転先になったのですか？

移転先の選定にあたっては、学識経験者や医療関係者、住民代表の方からなる有識者会議の意見を踏まえ、検討を進めてきました。その結果、①多くの市民にとって交通の利便性の向上が期待できること、②災害リスクの低い立地で災害対応のスペースを確保でき、防災機能の強化が期待できること、③まちづくりとの連携により地域活性化に寄与できること、というような観点を総合的に判断し、若松公園が移転先となりました。

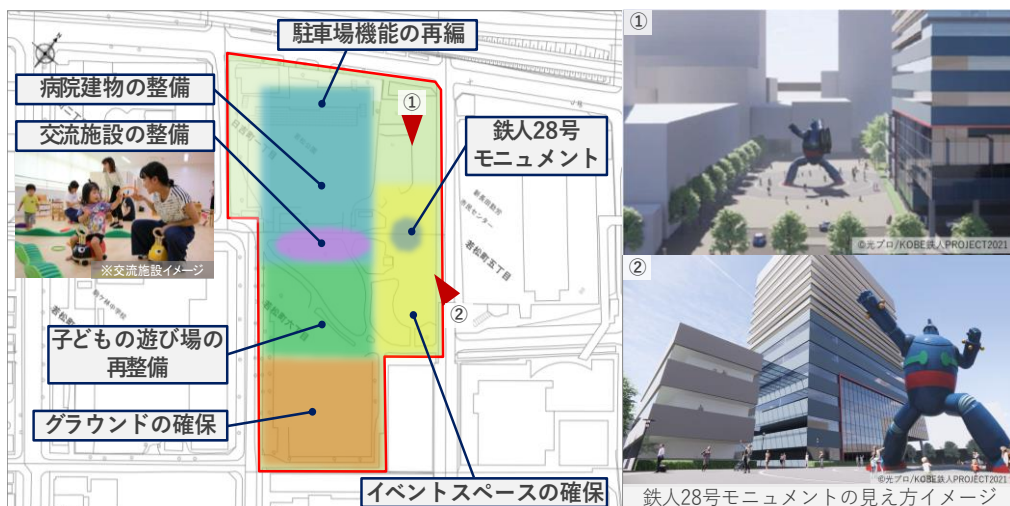
Q 若松公園はなくなってしまうのですか？

若松公園は、非常に重要な都市インフラであるため、今回の病院整備と併せて公園全体をリニューアルすることで公園機能を維持します。

現状の若松公園は、北側に遊具のある子どもの遊び場、中央部に高木のある植栽帯、東側に鉄人広場、南側にグラウンドがあり、新病院は公園北側に建設する予定です。

新病院の建設に伴い、東側の鉄人広場及び南側のグラウンドは現在と同じように利用できる機能を確保するとともに、中央部にある植栽を可能な限り残しながら北側にある子どもの遊び場を新病院の南側に整備したいと考えています。

公園のリニューアルについては、市民の皆さんの意見もお聞きしながら検討を進めていきます。



若松公園のリニューアルイメージ (©光プロ/KOBE鉄人PROJECT 2021)

Q 若松公園でイベントはできなくなるのですか？

現在多くのイベントが開催されている鉄人広場は、病院整備後もイベントスペースとして確保し、従来の機能を維持したいと考えています。

病院へのイベント音の影響については、病院建物に防音対策を施すことで、イベントへの影響を可能な限り考慮し、病院及び公園利用者がともに快適に過ごせるよう検討を進めていきます。

Q 若松公園は避難場所として指定されていますが、防災機能は低下しませんか？

若松公園に病院を整備することで、災害時には病院内に負傷者の受入れスペースを確保できるほか、備蓄品を保管でき、防災機能の強化が図れると考えています。

なお、若松公園は屋外緊急避難場所として指定されていますが、新病院整備後も引き続き避難場所として利用する予定です。新長田地域においては、若松公園とともに周辺の公園や学校グラウンドを屋外緊急避難場所として指定しています。

Q 新病院への移転後、今の西市民病院はどうなりますか？

現西市民病院の土地・建物は貴重な資産であることから、新病院移転後の跡地の利活用については、将来の経済情勢等を考慮し、幅広い観点から検討を進めていきます。

Q もっと早く移転できないのですか？

新病院の開院時期については、当初令和11年度頃としておりましたが、市民の皆さんのご意見を踏まえ、事業スケジュールの再検討を行った結果、令和10年度の開院を目指し、本事業に取り組みます。

Q 新病院ではどのような機能を強化しますか？

新病院では、救急医療や小児・周産期医療、感染症・災害医療などの政策的医療を充実させるとともに、がんや脳卒中、心血管疾患への対応を強化し、総合的な診療機能を向上させ、市街地西部の中核病院としての役割を果たし続けます。

また、地域で安心して出産ができる医療体制の構築や病児保育の実施など、子育て環境の向上に寄与し、若者の移住促進やまちの魅力を向上させるとともに、誰もが利用できる子どもの遊び場を含む交流施設を病院内に整備することで、にぎわいのあるまちづくりや地域活性化に寄与したいと考えています。

さらに、周辺の病院との医療機能の分担や連携により、それぞれの病院が持つ機能を有効活用することで、市民の皆さんに継続して必要な医療を提供し、病院利用者の利便性向上を図ります。

Q 新病院の救急車の動線はどうなりますか？

西市民病院では、年間約4,000件（1日あたり約11件）の救急車搬送患者を受け入れており、市街地西部の救急医療において重要な役割を担っています。

救急医療は、市民の生命を守るために非常に重要な医療であるため、新病院においては救急医療の充実を図りたいと考えています。救急車の動線についても、円滑に救急車搬送患者を受け入れられるよう検討を進めていきます。

新西市民病院に関する詳しい情報は、
神戸市ホームページ「新西市民病院整備基本構想」をご確認ください。
<https://www.city.kobe.lg.jp/a65055/shise/kekaku/health/nishi-saiseibi.html>

